

第5回 くれよん組の報告

【日 時】平成22年3月6日（土）午後2時から4時

【場 所】市役所 本館8階 第2委員会室

【内 容】（1）グループごとに話し合う
（2）その他

【出席者】メンバー 18人
ほか 職員、アドバイザー

今年度最後の会議となるため、前半はグループに分かれて前回の話合いの続きを行い、後半は会議の振り返り等を行いました。

1. グループごとに話し合う

【遊ぶ・つきあう】

「遊ぶ・つきあう」のグループでは、前回は“ディスコンの継続”と“料理教室の開催”を実施していくための話合いを行いましたが、二つを同時に進めるとメンバーの負担が大きくなるため、ディスコンのみの実施に向けた取り組みを進めていくこととしました。そのために、まずは社会福祉協議会が3月10日に実施する障害者スポーツのボランティア講座において、ディスコンが取り上げられることから、今後の参考とするためにメンバーが参加することとしました。

○ディスコンの継続に向けた検討事項

- ・ 開催場所について・・・定期的に確保できる場所
- ・ 八尾版のローカルルール・・・補助具を活用し、障害のある人もともに楽しめるルール作り、障害のある人も参加できるような既存ルールの緩和
- ・ 地域福祉推進事業への応募・・・広報費用、開催場所の使用料等の確保

【知る・利用する・参加する】

これまで議論してきた、障害のある人に関わる内容を抜粋した市政だより“ダイジェスト版”の試作について、今後取り組みを継続していくこととしました。

○ダイジェスト版の試作について

1) 作成について

- ・ くれよん組の人たちやボランティアに協力を募り、来年度中に“ダイジェスト版”を試作する。
- ・ まとめたりイラストを作ったりすることが得意な人が集まり関わらないといけない。
- ・ “ダイジェスト版”の作成を、事業化を考慮しながら取り組むと、市の広報担当との調整も必要となり動きにくい面も出てくる。始めはあまり先の展望については考えず、気楽に取り組みたい。市に頼るのではなく、やれる範囲で意見を持っていく形で、自分たちが動いていくことが大切。
- ・ 市政だよりは毎月発行されるものなので、作成するとなると大変なため、制度改正時などに、適宜発行するものにしてもいいかもしれない。

2) 内容について

- ・ まずは、「障害福祉」関連の情報をピックアップして集約することから始める。高齢者等も対象にした冊子の作成といった活動に広げられる可能性もある。
- ・ 「読んだら得だ」と感じてもらえるような特徴づけが必要。

○車いす利用者のグループによる町のバリアの点検について

- ・ 少しの段差であっても、車いすでは上がることができないと感じる。これまでは段差を見つけると、市に訴えて直してもらってきたが、車いす利用者でグループを作り、点検をしていきたいと思っている。
- ・ 段差について、一人で市に訴えるより、車いす利用者でグループを作って、取り組む形がいい。段差は高齢者や視覚障害者、ベビーカーを押すお母さんにとっても困るもの。“みんなの問題”として捉えて、活動できると訴える力も大きくなる。

2. その他

(1) 今年度の感想など

今年1年の活動について、会議の感想や反省点などを振り返りました。

(2) 来年度くれよん組の活動について

来年度くれよん組は、今年度テーマの具体化について、グループごとに継続した活動を行うことにしました。

(3) やお市民活動春の祭典について

3月15日（月）～19日（金）まで市役所1階の市民ロビーで開催される“やお市民活動春の祭典”で、くれよん組も展示を行うことについて報告しました。

(4) 冊子「わ！！」について

今年度の地域福祉推進事業の委託を受け、“ちーむ・りあらいず”が作成していた冊子「わ！！」が完成したことの報告がありました。

- ※ “ちーむ・りあらいず”・・・くれよん組の有志等による市民活動のグループ。
- ※ 冊子「わ！！」・・・障害の特性やお手伝いの方法について分かりやすく説明する冊子。